

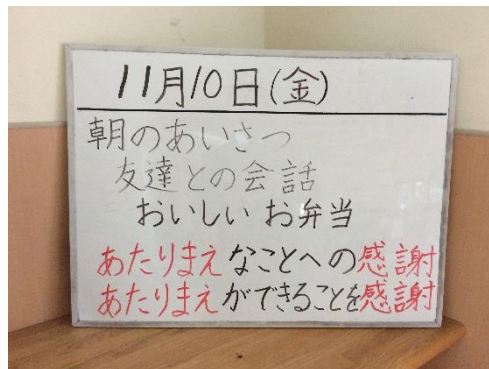
第44回合唱の会に思う2

楽譜通りに歌うということ

昨日は好天のもと勾当台公園で仙台市 PTA フェスティバルが開催されました。附属中小のブースも設けられ、ホシヤマさんのコーヒーと石井屋さんのパンが販売され大変好評を得ていました。各学校のパネルも展示され、お互いの学校を知り、交流を深める絶好の一日となりました。西井会長さんをはじめ寒い中早朝から対応していただいた保護者の皆様、本当にありがとうございました。

さて、校内では最近、私の前に立ち

「副校長先生、おはようございます」と言う前から礼をしてくれる子どもたちの姿が見られるようになりました。いわゆる**語先後礼**と言われる挨拶の中でも高級技術です。きっと担任の先生がこの技術を学級で指導してくださったのだと思います。時々、子どもたちの挨拶が話題になりますが、このように教えればできるのが附属小の子どもです。写真は4年生の廊下の黒板です。特別なことをするのではなく、毎日の生活の愚直な積み重ねこそ子どもたちにとっては何より大切なことだと私も思います。



朝の教室では学級合唱の練習が行われています。

3年生の教室では、子どもたちが楽譜をもって歌っています。何度も楽譜をもって歌うので、楽譜の台紙も少しくたびれかけてきました。先輩からよく教えていただいたのが

「楽譜通りに歌う」

ということです。しかし、これが実に難しい。

指揮者が楽譜を正しく理解することがまず必要ですが、それを子どもにわかるように伝え、子どもが楽譜通りに歌い、さらに表現に高めていくプロセスは試行錯誤の連続でした。その経験から学んだことは基礎練習を大事にすることです。まず、発声。「おなかの体操」「朝のあいさつ」を自分で指揮をして繰り返ししっかり行うこと。時には一人一人の子どもに歌わせたり、テンポを変えたりしながら行いました。だらだらやっても仕方がないので、子どもたちに練習時間を示して、その時間を集中できるように心がけました。次に正しい音で歌うこと。いわゆる音取りです。パートごとに練習をするのですが、3部になるとここは大変時間がかかります。どうしても、基礎練習はつまらないので、子どもたちもその気になってくれません。しかも高学年になると、パート練習を子どもたちだけで行うことも多いので、トラブルが起きることもあります。担任と一人一人の子どもたちとの関係が試される時です。私は子どもたちに配布する楽譜には小節ごとに番号を付けて、今日はここまで、今日はここまで、と言って目標を持たせ、進んでいきました。最後は音楽の先生に聞いていただき、「大丈夫！」と言っていた時は子どもたちと一緒にとても喜びました。

ここまでが一つの大きな山です。音取りができれば、ここからが次の段階。いよいよ子どもたちとの本当の戦いが始まります。

(文責：副校長 手代木)